

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-105496

(P2014-105496A)

(43) 公開日 平成26年6月9日(2014.6.9)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
<b>EO4F 13/08 (2006.01)</b>	EO4F 13/08 Y	2E110
	EO4F 13/08 V	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2012-259511 (P2012-259511)	(71) 出願人	390018463 アイジー工業株式会社 山形県東根市大字蟹沢字上縄目1816番地-12
(22) 出願日	平成24年11月28日 (2012.11.28)	(72) 発明者	大沼康信 山形県東根市大字蟹沢字上縄目1816番地の12 アイジー工業株式会社内
		(72) 発明者	縄智則 山形県東根市大字蟹沢字上縄目1816番地の12 アイジー工業株式会社内
		Fターム(参考)	2E110 AA14 AA15 AA42 AB04 AB22 CA07 DD10

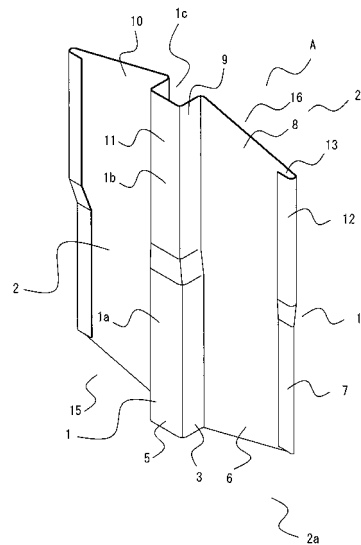
(54) 【発明の名称】 ジョイント部材

(57) 【要約】

【課題】本発明は、外装材を形成した際にできる目地部分の裏面に形成する敷目板の接続部材として使用するジョイント部材に係るものである。

【解決手段】垂直平面状板材の略中央部分を屋外側へ突出した立ち上がり部1と、左右両端部分の下連結片2aと上連結片2bからなる連結部2とから短尺状に形成したものであり、下連結片2aは、屋外側へ突出した下カバー部1aと、下カバー部1aの下端を左右方向に突出した下固定部6と、下固定部6の両端部を屋外側へ折り返して突出した下舌片7とから形成し、上連結片2bは、屋外側へ突出した上カバー部1bと、上カバー部1bの下端を左右方向に突出した上固定部8と、上固定部8の両端部を屋外側へ折り返して突出した上舌片12と、上舌片12より形成した嵌合溝13とから形成したジョイント部材Aである。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

垂直平面状板材の略中央部分を屋外側へ突出した立ち上がり部と、左右両端部分の上連結片と下連結片からなる連結部とから短尺状に形成したものであり、下連結片は、屋外側へ突出した下カバー部と、下カバー部の下端を左右方向に突出した下固定部と、下固定部の両端部を屋外側へ折り返して突出した下舌片とから形成し、上連結片は、屋外側へ突出した上カバー部と、上カバー部の下端を左右方向に突出した上固定部と、上固定部の両端部を屋外側へ折り返して突出した上舌片と、上舌片より形成した嵌合溝とから形成したことを特徴とするジョイント部材。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、外装材を形成した際にできる目地部分の裏面に形成する敷目板の接続部材として使用するジョイント部材である。

**【背景技術】****【0002】**

外装材の縦目地部分の継ぎ目の裏面に、防水性強化のために敷目板を形成することが、行われている。そこで、敷目板は土台から軒にかけて連続状に形成することが望ましいが、施工性、搬送性、作業性を考慮して作業者が持ち運べる長さにするのが一般的であった。そこで、上下方向に板材を接続する方法として、敷目板間に接続用のジョイント部材を形成し、上下を重ね合わせることにより接続部分の防水性を確保するものであった。（例えば、特許文献 1 参照）。

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0003】**

**【特許文献 1】**特開昭 57 - 194548 号公報

**【発明の概要】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

特許文献 1 は出隅ジョイナの上部に水受ジョイントピース、水受ジョイントピースの上部に出隅ジョイナの下部を重ね合わせることにより、出隅ジョイナ間の接続部分に隙間が発生しないように形成したものである。しかしながら、上下間の連結が確実でなく、また隙間が生じて漏水する危険性があった。

**【課題を解決するための手段】****【0005】**

本発明はこのような欠点を解決するために、垂直平面状板材の略中央部分を屋外側へ突出した立ち上がり部と、左右両端部分の上連結片と下連結片からなる連結部とから短尺状に形成したものであり、下連結片は、屋外側へ突出した下カバー部と、下カバー部の下端を左右方向に突出した下固定部と、下固定部の両端部を屋外側へ折り返して突出した下舌片とから形成し、上連結片は、屋外側へ突出した上カバー部と、上カバー部の下端を左右方向に突出した上固定部と、上固定部の両端部を屋外側へ折り返して突出した上舌片と、上舌片より形成した嵌合溝とから形成したジョイント部材を提供するものである。

**【発明の効果】****【0006】**

本発明に係るジョイント部材によれば、（ 1 ）敷目板の連結の際に、切り欠き加工を必要としない。（ 2 ）施工性が向上し、作業効率が向上する。（ 3 ）敷目板の上下の連結部分の防水性を向上できる。（ 4 ）重ねるだけの構造でなく、嵌合構造のため敷目板との一体化が強化される。等の特徴、効果がある。

**【図面の簡単な説明】****【0007】**

10

20

30

40

50

- 【図 1】本発明に係るジョイント部材の代表的一例を示す斜視図である。
- 【図 2】本発明に係るジョイント部材の代表的一例を示す説明図である。
- 【図 3】本発明に係るジョイント部材を使用する敷目板の代表的一例を示す一部切り欠き斜視図である。
- 【図 4】本発明に係るジョイント部材の施工状態を示す斜視図である。
- 【図 5】本発明に係るジョイント部材を使用する敷目板の施工状態を示す断面図である。
- 【図 6】本発明に係るジョイント部材の施工方法を示す斜視図である。
- 【図 7】本発明に係るジョイント部材の施工方法を示す斜視図である。
- 【図 8】本発明に係るジョイント部材の施工方法を示す斜視図である。
- 【図 9】本発明に係るジョイント部材の施工方法を示す斜視図である。
- 【図 10】本発明に係るジョイント部材の施工方法を示す斜視図である。

10

【発明を実施するための形態】

【実施例】

【0008】

以下に図面を用いて本発明に係るジョイント部材について詳細に説明する。図 1、図 2 は本発明に係るジョイント部材を示す斜視図と説明図であり、図 2 ( a ) はジョイント部材 A の正面図、図 2 ( b ) はジョイント部材 A の右側面図、図 2 ( c ) はジョイント部材 A の平面図、図 2 ( d ) はジョイント部材 A の底面図である。また、ジョイント部材 A の左側面図は右側面図と対象に表れるものである。また、図 3 は敷目板 B の一部切り欠き斜視図、図 4 はジョイント部材 A の施工状態を示す斜視図、図 5 は縦目地部 M の裏面部分に形成された敷目板 B を示す断面図であり、 は躯体、 は固定具を示すものである。さらに、図 5 ~ 図 10 はジョイント部材 A と敷目板 B との施工順序を説明する一部切り欠き斜視図である。

20

【0009】

ジョイント部材 A は図 1、図 2 に示すように、垂直平面状板材の略中央部分を屋外側へ突出した立ち上がり部 1 と、左右両端部分の連結部 2 とから短尺状に形成したものであり、縦目地部 M 部分に形成される敷目板 B の縦繋ぎに形成するものである。

【0010】

立ち上がり部 1 は下カバー部 1 a と、上カバー部 1 b と、凹部 1 c とからなり、連結部 2 は下連結片 2 a と、上連結片 2 b と、段差片 2 c とから形成したものであり、敷目板 B の上下端部に重合して防水性を強化する部分である。

30

【0011】

下連結片 2 a は、下側面 3、4 と下面 5 とから形成した下カバー部 1 a と、下側面 3、4 の下端を左右方向に突出した下固定部 6 と、下固定部 6 の両端部を屋外側へ折り返して突出した下舌片 7 とから形成したものである。

【0012】

上連結片 2 b は、上側面 9、10 と上面 11 とから形成した上カバー部 1 b と、上側面 9、10 の下端を左右方向に突出した上固定部 8 と、上固定部 8 の両端部を屋外側へ折り返して突出した上舌片 12 と、上舌片 12 より形成した嵌合溝 13 とから形成したものである。

40

【0013】

段差片 2 c は、下連結片 2 a と上連結片 2 b 間を段差 14 を介して形成された部分であり、後記する敷目板 B の連結部分として形成される部分である。

【0014】

下連結片 2 a は図 4 に示すように、下段の敷目板 B の立ち上がり部 18 にジョイント部材 A の立ち上がり部 1 を被せると共に、下段の敷目板 B の上端部の係合溝 20 にジョイント部材 A の下舌片 7 を挿入するように押し込み、敷目板 B の上端部にジョイント部材 A の下連結片 2 a を連結するものである。

【0015】

上連結片 2 b は図 4 に示すように、上段に形成する敷目板 B の下端部分の立ち上がり部 1

50

8をジョイント部材Aの立ち上がり部1に被せるように押し込み、ジョイント部材Aの上端部の嵌合溝13に、敷目板Bの下片19を挿入することによりジョイント部材Aに敷目板Bを連結するものである。

【0016】

下切り欠き15と上切り欠き16は、立ち上がり部1部分を突出して形成することにより、ジョイント部材Aを敷目板Bに差し込む際、あるいは敷目板Bをジョイント部材Aに差し込む際のガイドとなり、作業性を向上するために形成したものである。

【0017】

敷目板Bは図3に示すように、図5に示す縦目地部Mの断面図に示す躯体 上に固定具により形成し、外装材G、カバー材K、パッキンC、シーリングSよりなる縦目地部Mの防水下地材として機能するものである。

10

【0018】

なお、ジョイント部材A、敷目板Bの素材としては、金属製板材をロール成形、切断加工、プレス成形、などの加工により成形したものである。

【0019】

そこで、本発明に係るジョイント部材Aの施工方法について説明する。まず、図6に示すように躯体 に固定された敷目板Bの上端部分に形成されたパッキンCを、図7に示す下カバー部1aの幅Hの長さ分H1の長さで切り取る。この場合は、H H1の関係である。

【0020】

20

次に、図7、図8に示すように下段の敷目板Bの立ち上がり部18にジョイント部材Aの立ち上がり部1を被せると共に、下段の敷目板Bの上端部の嵌合溝20にジョイント部材Aの下舌片7を挿入するように押し込み、敷目板Bの上端部にジョイント部材Aの下連結片2aを連結するものである。

【0021】

その後、図9、図10に示すように、上段に形成する敷目板Bの下端部分の立ち上がり部18をジョイント部材Aの立ち上がり部1に被せるように押し込み、ジョイント部材Aの上端部の嵌合溝13に、敷目板Bの下片19を挿入することによりジョイント部材Aに敷目板Bを連結し、固定部17を固定具 により躯体 に固定する。

【0022】

30

最後に、図10、図4に示すように、パッキンCをジョイント部材Aの露出部分の両端に隙間なく形成し、ジョイント部材Aと、敷目板Bの施工を完了するものである。

【0023】

なお、図2(b)、(c)、図3に示すように、ジョイント部材Aにおいて、嵌合溝13間の幅をW、下舌片7間の幅をW1、敷目板Bにおいて、嵌合溝20間の幅をT、舌片19間の幅をT1とすると、W T1、W1 Tの関係である。

【0024】

また、図では縦目地部M部分に使用するジョイント部材Aについて説明したが、略90度で屈曲し、出隅部分、入隅部分の敷目板Bのジョイント部材Aとして使用することもできるものである。

40

【符号の説明】

【0025】

躯体

固定具

A ジョイント部材

B 敷目板

C パッキン

G 外装材

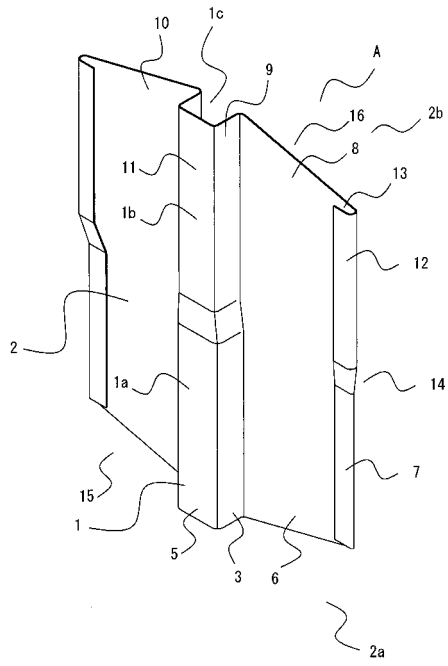
K カバー材

M 縦目地部

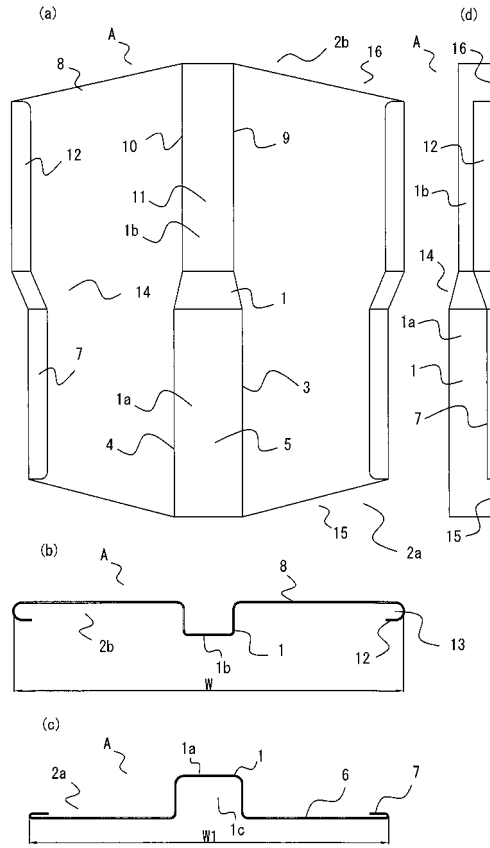
50

S	シーリング	
1	立ち上がり部	
1 a	下カバー部	
1 b	上カバー部	
1 c	凹部	
2	連結部	
2 a	下連結片	
2 b	上連結片	
2 c	段差片	
3	下側面	10
4	下側面	
5	下面	
6	下固定部	
7	下舌片	
8	上固定部	
9	上側面	
1 0	上側面	
1 1	上面	
1 2	上舌片	
1 3	嵌合溝	20
1 4	段差	
1 5	下切り欠き	
1 6	上切り欠き	
1 7	固定部	
1 8	立ち上がり部	
1 9	舌片	
2 0	係合溝	
2 1	外気取込孔	

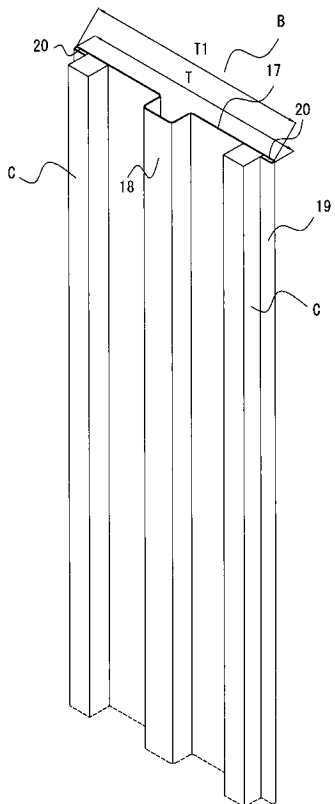
【 図 1 】



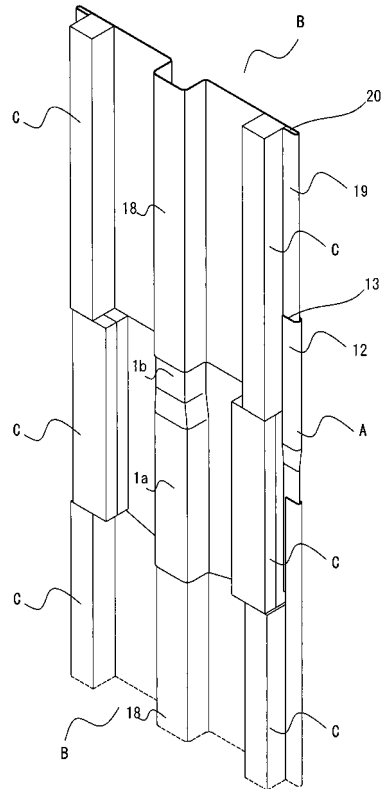
【 図 2 】



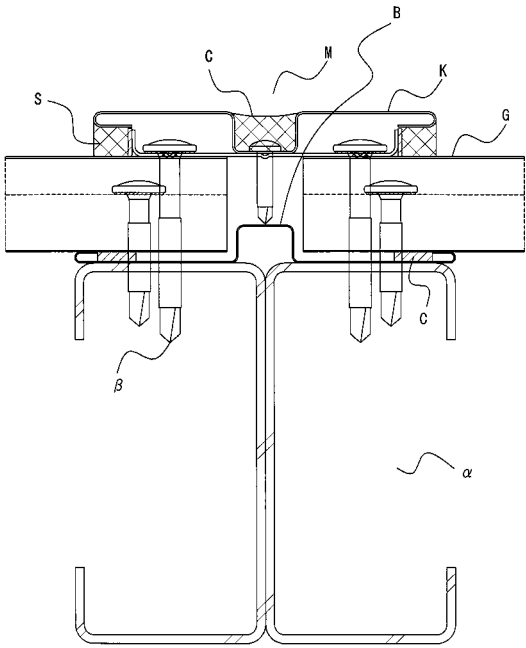
【 図 3 】



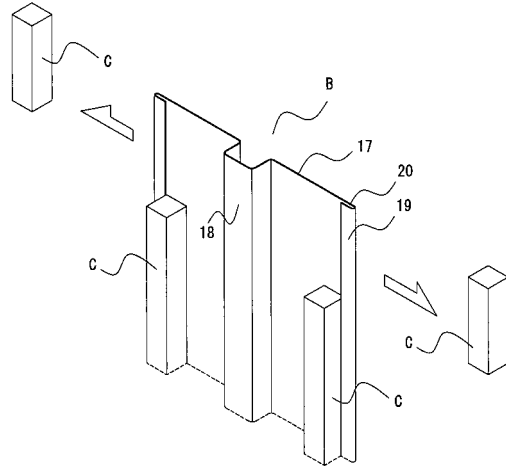
【 図 4 】



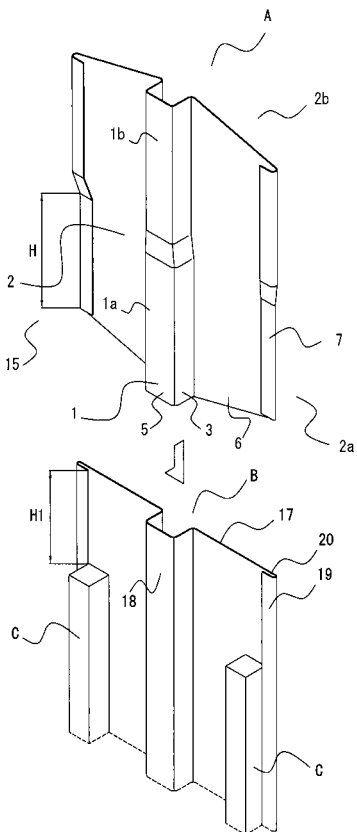
【 図 5 】



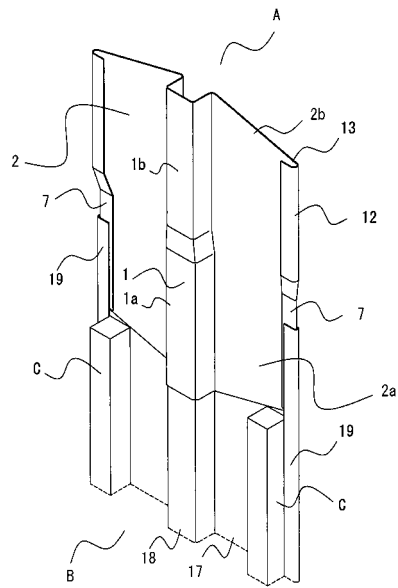
【 図 6 】



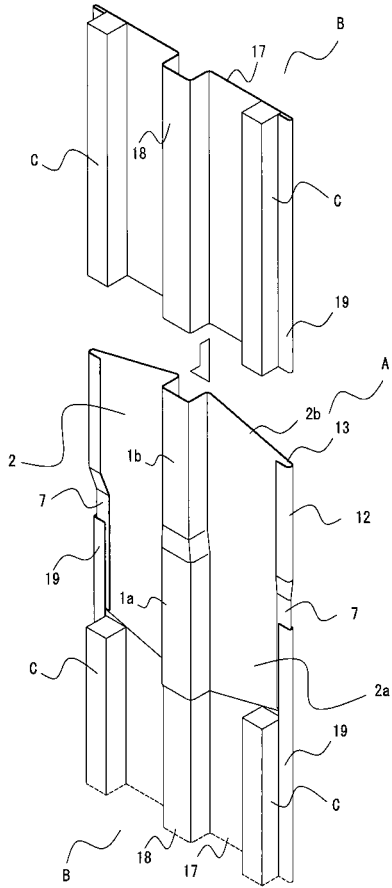
【 図 7 】



【 図 8 】



【 図 9 】



【 図 10 】

